

校長室だより		令和5年5月25日発行
共学共高	第	発行責任者
	45	白梅学園高等学校長
	号	武内 彰

体育祭～最初の全校行事 part 1

前日の雨が夜遅くまで降り注いだため、コンディションを心配したが、5月24日（水）、予定を30分ほど遅らせて体育祭を開催することができた。通常であれば、前日までに準備を終えて当日を迎えるのだが、それができなかつたため、早朝から保健体育科の先生や準備担当の先生たちが作業をしてくれた。午前7時を過ぎると、準備担当の生徒たちも続々とお手伝いにあたってくれた。スポンジで水を吸い取り、砂を散りばめる作業と晴天に恵まれたおかげで、グラウンドコンディションも何とか整った。

午前9時30分、開会式である。放送部のアナウンスに従って、全校生徒が整列する。まずは生徒会長のKさんによる力強い開会宣言である。その後、体育委員長のKさんによる選手宣誓、副委員長のYさんによる競技諸注意と続く。昨年のように「応援は拍手のみ」という注意もなくなった。大きな声援を送ってほしいものだ。

プログラム1番は「準備体操」である。正直に言うと、私は少し甘く見ていたところがある。昨年の準備体操はほぼ完璧についていけたからである。ところが、今年は流れる音楽も違うではないか。（あれ？同じだったかな。自信がない）ミッキーマウスのテーマ曲（？）に合わせて、更なる難度の上がった準備体操である。全校生徒たちは、はじめての踊り（準備体操）であるにも関わらず、全員が見事についていっている。さすが白梅生である。

続いて、「100m」、「70mハードル」である。各クラス代表メンバーによる真剣勝負である。やはり陸上競技部の生徒は走り方も違うし、もちろんタイムも早い。ハードルでは途中で転倒する生徒が複数出て、心配したが、無事に走り終えてくれた。ハードルで陸上競技部以外の生徒（私が顧問を務めるバドミントン部のHさん！）が第3位入賞したのは、稀有な出来事のような。保健体育科のE先生が後でこっそり教えてくれた。



100m



70m ハードル

「成長ムカデリレー」もなかなか難しい競技である。2年⇒1年⇒3年と学年ごとに行う。最初は3人くらいからスタートするが、途中で人数が増えて最終的には10人くらいになる。全員の足を特別な装具でつないで、歩調を合わせてゴールを目指すものだ。多くのチームは、掛け声の種類こそ異なるが、「イチニ、イチニ・・・」を声と足を合わせて前進するのだが、1年7組はちょっと違った。全員で普通に歩いているように見えるのだ。ところが、それが決して乱れることなく、そのまま学年トップでゴールした。「何だ、あれは？」といった驚嘆の声と、笑いが至る所で上がっていた。3年生はどのチームも早い。文字通り「成長」するのだろうか。



成長ムカデリレー

「2年台風の目」や「1年大縄跳び」は、チーム力が問われる競技である。前者では、3人で1本の棒を持ちながらコーンを回るところが難しそうだ。内側の人と外側の人とでは感じる遠心力が異なるからだ。後者では、練習の時に50回以上跳んだチームもいたが、本番ではなかなか難しかったようだ。一所懸命なプレーがいい。座席にいる生徒たちも精一杯の応援をしている。特に1年生の応援が盛り上がっている印象を受けた。



2年台風の目



1年大縄跳び

午前の締めくくりは、「3年生ダンス演技」である。保育・進学コースの生徒たちによる演技だ。入場時から趣があって引き付けられる。タイトルは「To the next stage」。放送部のアナウンスがグラウンド内に響く。「コロナ禍によって制限されてきた生活。ルールを守り、はみ出ることなく正確に実行してきたこの三年間。マスクから解放された今、必要になるのは自ら考え、行動していくこと。それは同時に、私たちの明るい未来や希望が、さらに広がることを意味する。恐れずに進め！」

メッセージもそうだが、演技も非常にメッセージ性のあるもので、大人数であるにも関わらず、調和がとれ、かつ独創的なものである。3年生のみなさん、素敵な演技をありがとう。

(つづく)



3年ダンス演技

(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)